

コミュニティでの出会いが、人生を変える

高野 直子 Takano Naoko

オープンソースで人生が変わった——そう話す高野直子さんは、世界最大級のオープンソースソフトウェア「WordPress」コミュニティ運営の中心メンバーである。高野さんがコミュニティに関わるようになったきっかけ、コミュニティを持続する秘訣について話をうかがった。インタビュアーは、同じくWordPressコミュニティのメンバーである善家直己（日本IBM）。

—— 高野さんとWordPressとの出会いについて教えてください。

アメリカにいてフリーランスで翻訳やWeb制作の仕事をしていた頃、自分のブログを作るために触れたのが最初です。やがてユーザーとして情報を発信するだけでなく、コミュニティでの活動にも楽しさを覚えるようになっていきました。

WordPressのコミュニティは幅広くて、コードを書くだけでなく、トレーニング、マーケティング、翻訳、ドキュメンテーションなど、すべての活動が対象です。多くの人が、好きなことを自由な時間を使って活動しています。

—— 私もユーザーガイドに不足を感じて意見したり記事を書いているうちにコミュニティのドキュメント・チームに加わりました。現在、高野さんは主にどのような活動をしていますか。

多言語対応や翻訳、コミュニティ支援チームなどに属しています。WordPressはカンファレンスの開催もコミュニティに支えられており、今はバンコクで開催される「WordCamp Asia」のグローバルリードとしても活動しています。

当初は個人的な活動でしたが、現在はAutomatticの社員としても業務でも関わるようになりました。AutomatticはWordPressの生みの親であるマット・マレンウェッグ氏が創業し、事業の柱はWordPressを使ったブログサービスの運営です。

—— 会社は完全リモートのワークスタイルだそうですね。



現在日本には10名ほどのメンバーがいますが、オフィスはありません。「リモートワーク」は物理的なオフィスがあるからリモートと呼べますが、Automatticは日本どころか米国の本社オフィスも今は無いため、「分散ワーク」と呼んでいます。いろいろなタイムゾーンで働いているので、誰もがフェアに会話できるように配慮しています。ですから、どんなことでも「書いて残しておいて」と言われる文化で、文章で説明できることが求められます。一方で、リアルタイムに対応できなくてもよいことも多いし、英会話が流暢でなくても仕事ができます。何かを伝えようとするのがより重要なんだと思います。

—— IBMでは、オープンソースの「OpenShift」をベースに企業向けの付加価値を付けて提供しています。また、事業と親和性のあるオープンソース・コミュニティに対して、資金や人を積極的に提供し応援していますが、WordPressのコミュニティは、どんな企業が支援しているのですか。

WordPressのコミュニティには、テーマ（デザインテンプレート）、プラグイン開発などをビジネスにしている会社の参加者が多く、それぞれの強みを生かして貢献することでユーザーのニーズを理解し、それに対応する改善や新機能の実装を行っています。日本でも多くのサーバーのホスティング事業者がイベントのスポンサーになってくれますが、そういった企業にとっては誰もが情報発信する現在、簡単な設定だけでWordPressを利用できるようにしておくことが、顧客獲得の競争力になります。WordPressのコードとデータベースやPHPのバージョンとの組み合わせなど、

実環境でのテストも実施してくれています。企業がオープンソース・コミュニティに参加する意義は、一緒に盛り上げることでユーザーを増やし、ひいてはビジネスが成長することにつながるということだと思います。

—— オープンソースなので、開発スピードや仕様を思いどおりにできない難しさはありませんか。

最近のリリースで参加したのはコードだけで600名ほど。ドキュメンテーションや翻訳なども合わせると、全体では1,000名以上のコミュニティ・メンバーが協力していました。もちろん何ごとも共有して決める必要がありますが、幅広い層の協力者の力を借りられることでローカリゼーションやアクセシビリティへの対応も進んだり、一緒に発展させていこうという企業も増えやすく市場が大きくなっていくので、長期的には良いことのほうが多いと思います。

—— コミュニティを盛り上げていくうえで、どんなことが大切だと思いますか。

コミュニケーションには気をつけなければならないと思います。コミュニティにおける通常の活動はリモート中心なので、実際に顔を合わせたことがない人も数多くいます。そして、参加者の立場や文化もさまざまです。例えば、社内のメンバーであれば厳しい話をしたほうがいいこともあります。ボランティアの人にビシッと言いすぎて、モチベーションをくじいてしまうのは怖いですね。

それから参加者のタイムゾーンも違うので、周知や判断には適切な期間設定の配慮が欠かせません。半日で締め切ってしまうのは、まだ見ていない人もいるわけですから。だからといって長すぎる設定だと、なかなか前進しません。

—— 私は企業ユーザーに対してオープンソースを利用するだけでなく、オープンソース活動にコントリビューション(貢献、参加)してほしいと願っています。ただ、いざ参加しようと思ってもどこから始めればよいのか分からない。特にプログラマーでない場合はそれが顕著ですね。

コミュニティに参加することで学びが多いからこそ、私も多くの人に参加してもらいたいと願っています。いちばん参加しやすいのは、カンファレンスかもしれませんね。東京や関西では大規模な開催があって、特に知り合いがいなくても一人で来ている人も見かけます。

善家さんが開催しているような、地域のイベントで興味を持ってコミュニティに参加する人も多いですね。近所になくても、ビデオ会議だけでイベントを開催しているグ

ループや、オンライン飲み会をしているところもあります。

—— ところが、常連ばかりの中には、なかなか入りづらいものですね。

そうですね。ですから、バリアを取り除くような取り組みはコミュニティ全体で工夫しています。「和」を大切にするのがオープンソースの良さだと感じていますし、私自身もかつて温かく歓迎されて楽しかった経験があります。

なんとなく参加するのではモチベーションが上がらないと思いますが、やりたいことがあれば、すごくいい場です。例えばスピーカーとしての経験を積みたい人には、初めてでも挑戦できるようなプログラムやメンターの仕組みがあり、登壇者がいつも同じにならないようにもしています。

オープンソースのコミュニティは、これから広がっていくリモートワークや、会社の外に出て能動的に活動するいい練習になると思います。私自身は、東京でのカンファレンスに携わったことで、後にAutomaticに参画するきっかけになりましたし、リモートワークの実践者としてインタビューを受けることもあります。考えてもみなかったことが起きました。

—— オープンソースは、人生を変えるきっかけにもなり得るんですね。

活動を通して多くの人に喜んでもらえて、それが仕事につながったり人生が変わったりした人もいます。そのたびに、「オープンソース・コミュニティには希望があるな」と思うのです。これからも、現在の活動がそういう手助けになればと思っています。



インタビューアー

善家 直己 Zenge Naomi

日本アイ・ビー・エム株式会社
東京ソフトウェア&システム開発研究所
クラウド・ソフトウェア・サービス シニア・マネージャー

OpenShiftベースのコンテナ環境IBM Cloud Pakを使用したソリューション構築支援担当。プライベートでWordPressコミュニティのドキュメントチームに所属、コンテンツ整備をリードしている。

取材協力:

コワーキングスペース Community Tree

<https://www.communitytree.jp/>

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目62-7 2F 03-5843-1083